



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

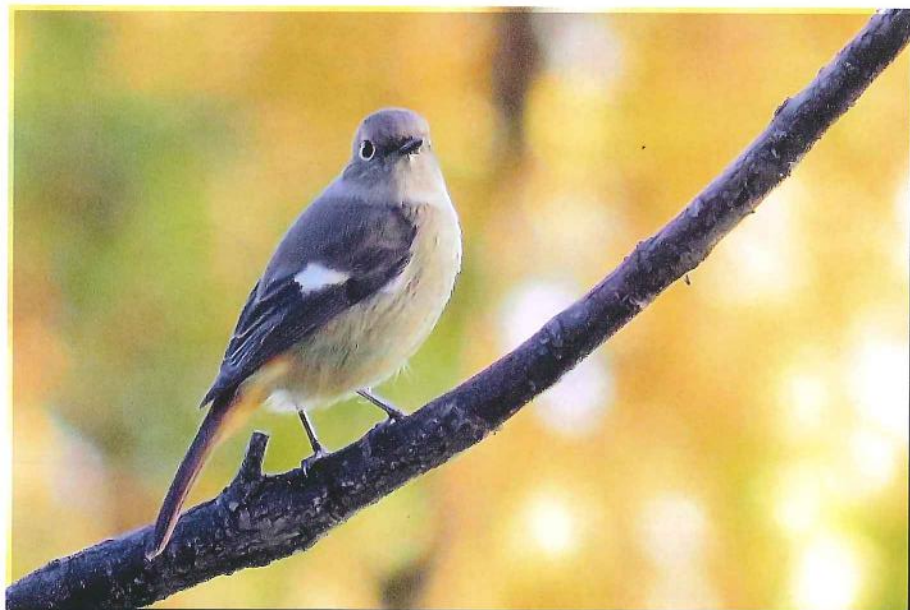
しらこぼと

2015.11

No.379

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



タイでバードウォッチング ～タイ探鳥の魅力と紹介～

進士 悦行(春日部市)

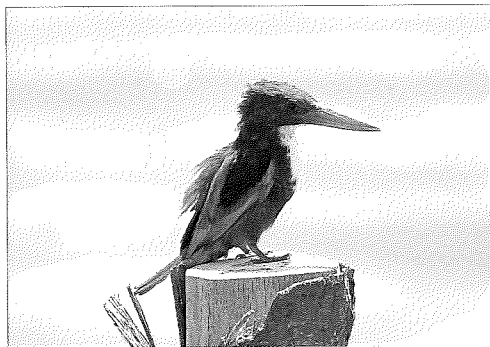
● はじめに

「微笑みの国タイ」といえばプーケット、パタヤ、チェンマイなど日本人に馴染みの観光地があり、また多くの日本企業も進出していることから、同国に渡航経験のある方は多いのではないかと思います。しかし、バードウォッチングが目的でタイに行かれた方は意外と少ないのではないのでしょうか。日本野鳥の会埼玉の会員の方々のなかにも、タイのバードウォッチングに興味はあるけれど、どうも現地の事情がよくわからなくて、とお思いの方もいらっしゃるかもしれません。本稿でタイのバードウォッチングの魅力を少しでもお伝え出来たらと思います。

● タイでの野鳥体験

もう10年以上前、タイに滞在中のある週末、友人に誘われバンコクから西に100kmほど離れたカンチャナブリ県のリゾートに出かけました。宿泊したリゾートホテル敷地の真ん前には湖沼があり、水辺のウッドデッキに寝そべて飲むビールの味は格別でした。

早朝、ウッドデッキから湖沼を何気なく見ていると青っぽい、ハトよりちょっと小さめの鳥が湖面を滑空し対岸の小枝に止まりました。ホテルから双眼鏡を借りてのぞいてみると大きな赤い嘴に茶色の頭、白い胸と青い背中のアオショウビン(White-throated Kingfisher)でした。



アオショウビン

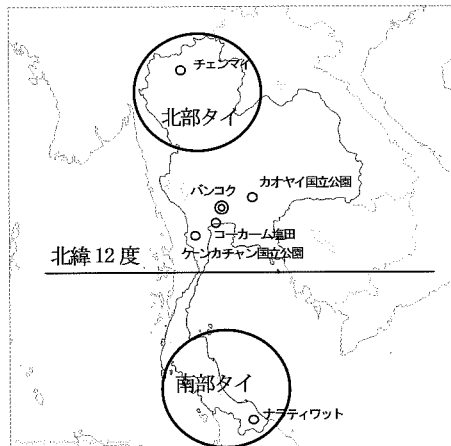
早朝の光を浴びて背中青色と胸の白色のコントラストは文字通り目が覚める美しさで、今でも脳裡に焼き付いています。物事には何事もきっかけというものがありますが、私の場合、このアオショウビンでスイッチが入ってしまったようで、以後ずっと今に至るまでタイの野鳥にハマっています。

● なぜタイに? 魅力その1

何といっても野鳥の種類多さ(豊かな鳥相)と数の多さ(濃い鳥影)が魅力です。タイの国土面積は約51万3,000km²あり、日本のおよそ1.4倍の広さです。また、国土は南北に長く1,860kmもあります。そのため、北緯12度ぐらいを境に南北で鳥相が変わります。

タイ北部は乾期になるとヒマラヤ、中国方面からの渡りの鳥でにぎやかになります。日本に普通にいるシジウカラ、アオジなども観察記録があります(ただし、タイでは珍鳥です)。

一方、南部は国境を接するマレーシアとほぼ鳥相が同じで、トロピカルな色彩の野鳥が多く見られます。このように変化に富んだ地勢のお蔭で、タイ全土ではこれまでに1,000種以上の野鳥が記録されています。このうち、タイ南部だけでしか見られない鳥は130種とされています。



● なぜタイに？ 魅力その2

タイの野鳥の魅力は、その羽色の美しさにもあります。私がタイの野鳥に興味をもつきっかけとなったアオショウビンをはじめ、色彩豊かな羽色の野鳥を沢山見ることができます。羽色が美しいことで人気の高いヤイロチョウは、タイには12種います。日本に夏鳥として渡ってくるヤイロチョウ(Fairy Pitta)とよく似たミナミヤイロチョウ(Blue-winged Pitta)は、タイでは普通種でどこでも見ることができます。



ミナミヤイロチョウ

カワセミをはじめとするショウビン類も、大変きれいな野鳥です。タイには16種もいて、その美しさはどれも甲乙つけがたいものです。ヤマショウビン、アオショウビン、ナンヨウショウビンなどは普通種で、至る所で見ることができます。また、キツツキ類も32種と大変種類が多く、独特の姿形と羽色の鮮やかさで、タイ人バードウォッチャーにも人気があります。



コガネゲラ

● なぜタイに？ 魅力その3

タイに限ったことではありませんが、海外バ

ードウォッチングの魅力は、日本ではなかなか見ることができない野鳥に出会えることです。珍鳥が出ると、たちまちバーダーでごった返す日本の鳥見に疲れた方は、ちょっとタイに出かけてみてはいかがでしょうか。

例えば、ヤツガシラ、シロハラクイナ、コウライウグイス、オウチュウなど、すべてタイでは普通種で、容易に会うことができます。



コウライウグイス(タイでは乾期)

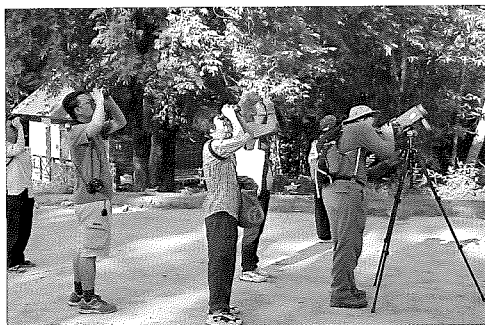
● タイの鳥見はどのように？

熱帯に位置し、年間を通じて30℃前後と気温が高いタイには、5月～10月の雨期と11月～2月の乾期、3月～4月の暑期があります。このうち乾期の12月～1月がバードウォッチングにはお勧めです。この時期は比較的気温が下がり、私たちにも過ごしやすく、かつ留鳥だけでなく、越冬のためタイに渡ってくる多くの鳥たちを見ることができます。

最初はツアー会社の企画するバードウォッチングツアーに参加されるのが、安全かつ効率よく多くの種類を見るのに良い方法かもしれませんが、2度目からはツアー会社に頼らない自分のタイバードウォッチングに挑戦してみたい方が良いでしょう。予期しないハプニングがあるかもしれませんが、苦労して出会った野鳥は大切な思い出になります。現地ガイドは国立公園内事務所、タイ野鳥保護協会(Bird Conservation Society of Thailand)などで紹介してもらえます。

また、同協会が企画するバードツアーに参加を申し込むのも良いでしょう。タイ野鳥保護協会のホームページにバードツアーの年間

スケジュールが掲載されています。次第にタイの鳥好きの人たちとの交流も深まり、ますますタイの鳥見が楽しくなるでしょう。



タイ野鳥保護協会(BCST)主催の探鳥会

● 手軽に行ける探鳥地

北部のチェンマイ周辺の探鳥地および南部のナラティワット周辺の探鳥地にバンコクから行くのは、東京から北海道、沖縄に行くぐらいの距離がありますから、入念な準備と資金計画が必要となります。一方、バンコク周辺にも比較的手軽に出かけることができ、かつ多くの野鳥に出会うことができるお勧めの探鳥地がいくつかありますのでご紹介させていただきます。(場所を前掲地図に示します。)

① ケーンカチャン国立公園

バンコクから車で3～4時間ほどの場所にあるペッチャブuri県の国立公園です。朝早く出れば日帰りも可能です。タイ自然国立公園のなかでも最大の面積があり、生息する野鳥の数は400種を超えと言われています。タイのキリオオナガ(Ratchet-tailed treepie)はここにしか生息していません。

② カオヤイ国立公園

ナコーンラーチャシマ県にある自然国立公園で、バンコクから車で約3時間かかります。公園内にはレストラン、宿泊施設などの設備がよく整っています。週末にはバンコクから家族連れがどっと押し寄せます。ここに生息する野鳥の数は350種と言われ、オオサイチヨウを見ることができます。野鳥以外にも野生のアジアゾウに遭遇することも。彼らが道路に出てくると車は暫く動けなくなります。



野生のアジアゾウの群れ

③ コーカーム塩田地帯

バンコクから車で1時間ほどのサムットサコン県にある塩田地帯です。ここには越冬のため多くのシギ・チドリが羽を休めに立ち寄ります。タイ野鳥保護協会は、観察小屋を作り観察を続けています。ここでは世界的に生息数が少ないヘラシギ(Spoon-billed Sandpiper)を見ることができます。

● おわりに

タイの野鳥観察をするようになり、次第にタイ国の自然環境にも関心を抱くようになりました。同国でも開発に伴う自然破壊が進行しつつあることを懸念しています。アジアカワツバメ(White-eyed River Martin)は1980年のブンプラペット湖での記録を最後に姿を消し、おそらく絶滅したであろうと言われていました。いつまでも自然豊かでバードウォッチングが楽しめるタイであって欲しいと願ってやみません。

参考

・タイ野鳥保護協会 <http://www.bcst.or.th>
野鳥の保護・調査研究、バードウォッチングの普及活動をしている団体です。ガイド、探鳥地の紹介などしてもらえます。

・野鳥図鑑

A Guide to the Birds of Thailand
(Boonsong Lekagul, Philip D. Round)
タイバーダーのバイブルです。タイ語版/英語版があります。

※写真はすべて筆者撮影

<おしゃれ> & <マナー遵守> で狩猟事故から身を守ろう！

埼玉県鳥獣保護管理員 小林みどり

毎年11月15日から翌年の2月15日までは**猟期**。各地で銃を使った狩猟が行われます。そして毎年のように、交通事故に比べればはるかに少ないものの、狩猟事故が起きています。狩猟による他損事故は一昨年19件(死者5名)、昨年5件(死者2名)となっています。銃の暴発や流れ弾による事故もありますが、それ以上に多いのが、動物と間違えて撃たれる誤射。加害者の多くは、なんと狩猟歴十年以上のベテラン。射撃が達者なハンターに、ターゲットと間違えられて撃たれたら…かなり怖いですね。

当会の探鳥会は、「鳥獣保護区」「銃猟禁止区域」で、銃猟の規制がない場所では猟期を外して行われています。探鳥会中に狩猟事故に遭う可能性はまずありません。しかし県西部の山地や、利根川・荒川・入間川の河川敷の一部では銃猟が可能です。個人的な探鳥や山歩きには注意が必要です。

黒っぽい服装で、山や森をウロウロしてい

る人は、ハンターには「クマ」にしか見えなそう。そこで、狩猟事故を防ぐには…服装や持ち物選びは安全を第一に、**<おしゃれ心も満たされる明るい色を！>**

「鳥を驚かさないように目立たない服装で」は、観察用具の性能がよくなかった時代の話。そもそも、どんなに目立たない服でも、近づけば鳥は驚きます。自然界にない色身につけて、自分の存在をアピールしましょう。(光ったり音が出たりするのは、探鳥の時にはさすがにNG)

<鳥を見る時は、道からはずれず！>

野鳥観察のマナー「や・さ・し・い・き・も・ち」の「い：一本道、はずれないで」は、自分の命を守るためのルールでもあります。ハンターは、人間が歩く道に向かっては発砲しません。

動物と間違えられて、楽しい鳥見人生を終わらせることのないように、気をつけましょう！

第1回「埼玉 Young 探鳥会」開催決定！ (ヤン探)担当 石塚敬二郎

『Young 探鳥会』、略して『ヤン探』!? それは、学生や小さなお子様連れのご家族等おむね20~40代の世代の方々を中心とする探鳥会の事。近年の探鳥会ではあまりお見受けしない方々に積極的に参加して頂こうという企画です。

こういった「若者向け探鳥会」はすでにいくつかの支部で開催されています。私は、お隣の東京支部でこの「ヤン探」が開催されると聞き、勉強の為に行って参りました(写真)。

そこには「今日が初めて…」というビギナーから「大学で生物系を専攻」というハードなリピーター…、様々な若者が集まっています。その光景は活気にあふれ、「野鳥が好き！」の会話がどこからともなく聞こえてくる、とても楽しい場でした。

“埼玉”も負けてはいられません！



そこで「12/19(土) 第1回 埼玉 Young 探鳥会 in 戸田市・彩湖道満グリーンパーク」を立ち上げました。

関係ないと思われる方、年齢は全く関係ありません！ “若い”という気持ち、培ってきた野鳥への愛情・経験など、たくさん話題を持ってご参加ください。「野鳥」という共通の輪の中で楽しい時間をみんなで過ごしましょう。

詳細は、次号及びHPにてご案内します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



野鳥情報

- 春日部市倉常** ◇8月2日、休耕田でクサシギ1羽、イソシギ1羽、コチドリ20羽十、アオサギ6羽、チュウサギ1羽、ダイサギ2羽。8月23日、休耕田でセイタカシギ成鳥1羽、アオアシシギ1羽、クサシギ2羽。8月27日、休耕田でセイタカシギ成鳥1羽、アオアシシギ2羽、タカブシギ1羽。他の休耕田でエリマキシギ成鳥♂1羽、トウネン2羽、イソシギ2羽、コチドリ40羽十。さらに別の休耕田でタカブシギ3羽、クサシギ3羽、コチドリ10羽十。コサギ幼鳥3羽が足を震わせて採餌していた(鈴木紀雄)。
- 鴻巣市大間1丁目** ◇本誌9月号に掲載された「キジバト営巣記」の後日談。8月3日午後5時20分ごろ、つがいと思われるキジバト2羽が巣の様子を見に来ていた。巣に乗ったりしていたが、その後は音沙汰なし(榎本秀和)。
- さいたま市緑区大崎** ◇8月16日、民家園周辺の芝川の川辺でコサメビタキ(大畑)。
- 鴻巣市大間1丁目** ◇8月16日夕方、ショウドウツバメが三々五々上空を渡ってゆく。今季初認。毎年立秋のころ姿を見せ始めるのだが、今年は気がつくのが遅れたかな? 日中はまだ暑いけれど、日暮れ近くともなると空気中の熱気が変わって来るようになった。空の色、雲の形に秋の気配が漂う。8月20日午後、電線に複数の鳥影を見つけ、部屋の中に三脚を立てて確認したら、思ったとおりコムクドリの群れ(17羽)だった。今季初認。みんな幼鳥のようで、♂♀がどうも判然としないのだが、半々ぐらいだったのかも。ムクドリ幼鳥も1羽(榎本秀和)。
- 蓮田市笹山** ◇8月17日、電線にズラッと並ぶツバメ約100羽とともにいるシラコバト2羽を確認(鈴木紀雄)。
- 加須市栄 N36. 1786 E139. 6705** ◇8月21日、コウノトリ1羽が田圃で採餌。標識 J0073は兵庫県立コウノトリの郷公園が放鳥した個体。現地の人の話では7月末ころからい

たとのこと。この後、8月28日に岐阜県不破郡で確認。同日、滋賀県米原市で確認。他にケリ3羽、トビ数羽、サギ類50羽十(長嶋宏之)。

- さいたま市岩槻区本丸** ◇8月21日午前5時から5時30分の間に西方より東方の採餌場に向かって飛ぶサギ149羽を確認(内田克二)。
- 久喜市菖蒲町N36. 0574 E139. 5991** ◇8月25日、小林調節池でダイサギ、チュウサギ、アマサギなどのサギ類70羽十。アオサギ2羽。近くの電柱にオオタカ若鳥、チョウゲンボウ♀。他にヒバリ、セッカ、ツバメ、ショウドウツバメなど(長嶋宏之)。
- さいたま市見沼区膝子** ◇8月27日、電線のムクドリ約50羽中にコムクドリ♂若鳥2羽と♀1羽(鈴木紀雄)。
- 春日部市大沼** ◇8月27日夕刻、昨年多くのコムクドリが罅入りした大沼運動公園南西縁のプラタナスの木4本が高さ4m程のところで切られてしまった。公園内のヒマラヤ杉など他の木にスズメが大量に罅入り。そこに2羽のチョウゲンボウが何度か突っ込むも失敗。1羽は更に飛び始めたコウモリの狩りにも失敗して、2羽とも飛び去る。その後、薄暗い中、コムクドリ100羽弱が罅入り(鈴木紀雄)。
- 川口市行衛 芝川第一調節池** ◇8月30日、セイタカシギ7羽、クサシギ2羽。午後5時30分頃からシラサギ200羽位が罅入り。種類わからず(野口 修)。
- 行田市斎条** ◇9月1日、コガモ3羽、アカエリヒレアシシギ3羽(吉原俊雄・早苗)。
- 坂戸市赤尾** ◇9月3日午後3時10分、老人福祉施設「ことぶき荘」近く、車で通りかかった道路脇の田んぼにチュウサギ1羽。市内での自己観察は3年ぶり(増尾 隆)。
- 蓮田市黒浜** ◇9月5日、モズの高鳴き初認(吉原俊雄・早苗)。

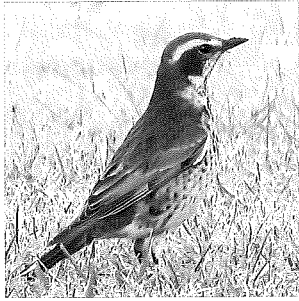
表紙の写真

スズメ目ヒタキ科ジョウビタキ属ジョウビタキ 錦秋は、一年で最も美しい季節。渡って来る鳥たちを出迎える最高の舞台です。

又部綱仁(さいたま市)



行事案内



ツグミ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生50円、一般100円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止。小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月7日(土)

集合：午前8時、丸山公園北駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口①番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：小林(み)、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、浅見(健)、浅見(徹)、大坂、近藤、柴田、立岩、永野、廣田、山野、吉原(早)

見どころ：毎年ここで、その年最初のジョウビタキに会えるのが楽しみです。人出前の早朝の公園とその周辺で冬鳥を探します。

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：榎本(秀)、新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：クィッククィツ、ツグミの声が聞こえてくる。渡って来たばかりのツグミの群れは、まだ落ち着きなく飛び回っている。ジョウビタキ、カシラダカ、モズの声、カモの群飛…。感性を全開にして、小さな秋を探してみましよう。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：11月7日(土)

集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口、茨急バス③番乗り場から松伏町役場行き8:47発で「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、植平、榎本(建)、佐藤、佐野、進士、田邊、野村(修)、野村(弘)、森下、吉岡

見どころ：昨年11月の探鳥会での確認種は37種。カモ類を中心とした水辺の鳥や山野の鳥がまんべんなく楽しめます。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月8日(日)

集合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場。

交通：東武春日部駅西口、朝日バス③番乗り場8:41発春日部エミナース行きで、「共栄大学入口」下車(290円、所要約15分)。西へ徒歩約7分。

担当：石川、菊川、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、吉岡、吉安

見どころ：毎年この時期は、ツグミは来たのだろうか、ジョウビタキは？ シメは？ 今年は早いのかなあ、遅いのかなあ、などと冬鳥の飛来が気になります。そして会えるとなぜかホッとして気持ちが和むのです。

帰りのバス：下車したバス停から、13:07、14:20。(9月現在の時刻表による時刻です。)

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月8日(日)

羽生市・羽生水郷公園探鳥会（平日）

期日：11月12日（木）

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート（ムジナもん号）で東武伊勢崎線羽生駅東口8:05発または南羽生駅8:22発で、「キャッセ羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原（修）、相原（友）、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木

見どころ：待ち望んだ冬鳥の季節到来です。

常連のヨシガモや日光連山を背景に猛禽が飛ぶ静かな公園での平日探鳥会です。

帰りのバス：下車したバス停から14:51。

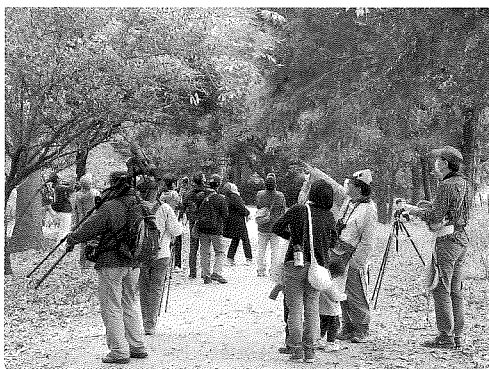
さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月14日（土）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場南側のベンチ付近。

担当：浅見（徹）、赤堀、浅見（健）、工藤、小林（み）、柴野、野口（修）、山田

見どころ：見沼田んぼ～加田屋川～染谷の屋敷林～公園の池と林。色々な環境で鳥を探します。カモたちは勢揃いしているかな。



昨年11月16日 見沼自然公園探鳥会

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月15日（日）

集合：午前7時50分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バス北浦和発8:09で現地へ（ご注意：案内人は7時40分ごろに北浦和駅東口到着予定です）。または午前8時30分、

さいたま市立浦和博物館前。

解散：14時ころ、さいたま市立浦和博物館。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、赤堀、浅見（健）、浅見（徹）、石塚（敬）、楠見、小菅、小林（み）、柴野、須崎、新部、畠山、増田

ご案内とご注意：開始時刻が30分早まります。

また、お弁当を持参してください。「さいたま国際マラソン」開催の関係で交通規制があり、開始時刻と終了時刻を今回に限り変更します。いつもより開始を30分早め、途中でお弁当を食べ、終了は14時過ぎの予定です。見沼田んぼをゆっくり歩き、たくさん鳥たちをたくさんの人たちと楽しみます。

バスの時刻等に変更があった場合は当会HPに掲載します。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月15日（日）

集合：午前8時35分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。※博物館駐車場は博物館利用者専用です。駐車する場合は「蝶の里公園駐車場」にしてください。

交通：東武東上線川越7:59発、または寄居8:04発に乗車。

担当：千島、新井、今村、鶴飼、中村（豊）、松下、持丸

見どころ：菅谷館から蝶の里公園、都幾川の兩岸を歩きます。シメ、アオジ、カシラダカ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミたちが来ているでしょう。

戸田市・彩湖探鳥会（平日）

期日：11月19日（木）

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR埼京線武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場8:12発下笹目行きで、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林（み）、赤坂、赤堀、石塚（敬）、石塚（真）、今村、新部、藤田

見どころ：今月から来年3月まで、毎月、探鳥会を続けます。渡って来たカモ類、カイツブリ類の冬の暮らしを見つめてみましょう。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：11月21日（土）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:36→南栗橋7:52→柳生8:06着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で東武日光線に乗り換え、柳生8:06着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口（修）、山田、茂木

見どころ：2年続けて雨でした。今年は絶対に晴れます!! 50種目指して、谷中湖を歩きましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月21日（土）午後3時～4時ころ
会場：会事務局108号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月22日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:39発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木（秀）、高草木、中村（祐）、藤掛、星、水谷、山口、山本（真）

見どころ：入間川の上流に富士山の姿がくっきり見える季節になりました。朝の空気を胸一杯に吸って冬鳥たちを探します。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日（月・祝）

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。

交通：JR高崎線本庄駅北口から国際十王バス9:06発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井、鶉飼、小淵、倉崎、田島、千島
見どころ：晩秋の利根河原で到着したてのカモたちや冬の小鳥たちとの再会を楽しみましょう。きっと猛禽たちも仲間に入れてくれることでしょう。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きますので、足拵えはしっかりと。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月23日（月・祝）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパーサミット前の円形広場。

担当：持丸、神場、佐久間、志村、鈴木（秀）、高草木、中村（治）、中村（祐）、藤澤、山口

見どころ：初冬の柳瀬川の土手を散策します。今年はどうな野鳥達と逢えるのでしょうか。富士見橋の工事も完了し、台風や9月の大雨にも、柳瀬川は大きな被害はほとんど無かったのですが中州は毎年変化しています。柳瀬川の左岸、右岸を、新河岸川と柳瀬川の合流点迄歩きます。

宮城県・蕪栗沼探鳥会（要予約）

期日：11月28日（土）～29日（日）

詳細は10月号をご覧ください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月29日（日）

集合：午前8時45分JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、内田、榎本（建）、小林（み）、田中、長嶋、菱沼（一）、菱沼（洋）、星野、吉安

見どころ：黒浜沼周辺は晩秋の装いとなり、葉が落ち始めた木立にはツグミやシメ、黄色になったアシ原にはアオジやオオジュリン等が北の国から帰ってきています。加えて大空にオオタカが飛んでくれるといいですね。

ご注意：車で来られる方は、出発地点の環境学習館ではなく、北側に新しく出来た“緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場”を利用して下さい（環境学習館まで徒歩1分）。



行事報告

4月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 30名 天気: 晴

コジュケイ キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (33種) (番外: ガビチョウ) 風が強く土手での観察では、多くの鳥種は見られない。ゴルフ場内の公道でようやくコゲラ、シジュウカラ、脇の枯草にカシラダカなど常連の小鳥が観察でき、さらに期待のベニマシコも後半の組で鳴声を確認。猛禽類では4種が揃い、この時期に見られるいつもの鳥たちも見られた。かつてに比べるとまだ少ないが、こんなものかとも思う。(茂木幸蔵)

4月19日(日) さいたま市 三室地区

参加: 56名 天気: 曇

キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン コチドリ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (31種) (番外: ドバト) 芝川土手を歩くコース。対岸、満開の菜の花(カラシナ)の中に見え隠れするキジ、まだ残っているコガモ、枯れたアシをつつくコゲラ、脇の畑でコチドリを観察。北側斜面林の鉄塔頂部にはオオタカがとまり全員で観察。ほか猛禽4羽出現。充実した鳥見。(柴野耕一郎)

4月26日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加: 121名 天気: 晴

コジュケイ キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コチドリ トビ サシバ カワセミ コゲラ チョ

ウゲンボウ サンショウクイ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (39種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 記録的な参加者数。日本野鳥の会東京の「Young探鳥会」の常連さん達が多数参加されたため。しかし、この季節の秋ヶ瀬らしい鳥には出会えず、一部の人がサンショウクイを確認しただけ。上空を飛んだタカは参加者が撮影された写真からサシバと判定。鳥合わせの後、「Young探鳥会」メンバーの高田君が、自ら立ち上げた『関東学生鳥ねっと』を紹介。鳥好きな若者がたくさんいることを知って嬉しくなるとともに、彼らの先を歩く我ら“アラ環”は何をすべきか?と考えさせられた。(小林みどり)

4月29日(水、祝) 東松山市 物見山

参加: 58名 天気: 曇

コジュケイ カルガモ カイツブリ キジバト トビ ノスリ コゲラ アオゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ キビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ (28種) (番外: ガビチョウ) 野鳥の声を楽しみながら新緑の山道を歩いた。森の中でにぎやかに歌っているのはガビチョウだ。ウグイスの声を圧倒して久しい。キビタキの声も何か所かで聞いた。シメが枝の高いところで群れていた。その後アオゲラやイカルなどの声を聞きながら岩殿観音に上がり、鳥合わせ。(中村豊己)

4月29日(水、祝) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 15名

石井智、石塚敬二郎、海老原教子、大坂幸男、大塚純子、熊倉静代、小林みどり、佐久間博文、柴野耕一郎、富田美邦、西村大志、野口修、馬場友里恵、村上政直、横井由美子 ◇ 調査結果は2015年7月号『しらこぼと』で報告済み。(石井 智)

5月3日(日、祝) 幸手市 宇和田公園

参加: 43名 天気: 晴

キジ カルガモ キジバト シラコバト カワウ

アオサギ ムナグロ コチドリ トビ ノスリ
 コゲラ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボ
 ソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバ
 リ ツバメ ウグイス メジロ オオヨシキリ
 セッカ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグ
 ロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (29種) (番
 外: ドバト) 今年も早々にシラコバトが見られ
 た。これを楽しみに参加される方も多いため、ま
 ずは一安心。営巣中のチョウゲンボウが飛び回る
 なか、用水路に沿って江戸川まで進むとセッカや
 オオヨシキリの声が聞こえてきた。水田地帯へ出
 ると、乾いた田んぼでムナグロがくつろいでいた。
 宇和田公園へ戻り木陰で鳥合わせ。(佐野和宏)

5月5日(火、祝) 茨城県 浮島〜千葉県 小見川

参加: 23名 天気: 曇後晴

コジュケイ キジ カルガモ カンムリカイツブ
 リ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダ
 イサギ コサギ バン オオバン ムナグロ コ
 チドリ メダイチドリ セイタカシギ タシギ
 オオハシシギ オオソリハシシギ チュウシャク
 シギ キアシシギ キョウジョシギ コアシサシ
 トビ チュウヒ コゲラ モズ ハシボソガラス
 ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ
 ヒヨドリ ウグイス メジロ オオセッカ オオ
 ヨシキリ セッカ ムクドリ キビタキ スズメ
 ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ コジュリ
 ン (45種) 最初の『坂野家住宅』ではキビタキ
 が大きな声でお出迎え。次の浮島では、観音舎の
 近くでオオセッカ・コジュリン、近くの田んぼで
 50羽位のムナグロ、橋を渡ったハス田でオオハシ
 シギの群れを見た。ただ、お目当てのツルシギを
 見られなかったのが残念だ。最後に小見川大橋に
 移動してチュウシャクシギの峙入りを観察。日没
 間際に300羽位の群れが飛んできて参加者から歓声、
 10時間を超える探鳥会は終了した。(入山 博)

5月6日(水、振休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 53名 天気: 晴

カルガモ コガモ ホシハジロ スズガモ カイ
 ツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ
 コチドリ メダイチドリ セイタカシギ チュウ
 シャクシギ キアシシギ トウネン ツミ オナ
 ガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウ
 カラ ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ ムクド

リ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ (27種)
 (番外: ドバト) 潮干狩りが始まってもしギ類
 が三番瀬から来ない。仕方なく北回りで干潟を回
 って残り物を見た。バラ園裏でツミが出現してび
 っくり。ここの探鳥会では初記録。シギ・チは終
 了後に多く出た! (杉本秀樹)

5月8~10日(金~日) 東京都 三宅島

参加: 24名 天気: 晴一時雨

コジュケイ カラスバト キジバト クロアシア
 ホウドリ オオミズナギドリ ウミウ ゴイサギ
 アオサギ ダイサギ チュウサギ ジュウイチ
 ホトトギス ツツドリ アマツバメ キアシシギ
 ウミネコ カンムリウミスズメ オオタカ ノス
 リ アオバズク コゲラ モズ ハシボソガラス
 ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバ
 メ ヒヨドリ ウグイス イイジマムシクイ メ
 ジロ ウチヤマセンニユウ オオヨシキリ ミソ
 サザイ アカコッコ コマドリ ジョウビタキ
 イソヒヨドリ スズメ カワラヒワ ホオジロ
 (41種+ミズナギドリ科不明種、アジサシ属不明
 種) 3年ぶりに復活。カラスバト、タネコマド
 リ、アカコッコなどが何度も現れ、全員でじっく
 りと観察。島内の交通手段として、今回初めて村
 営の貸し切りバスを利用。島内観光もできて好評
 だった。昨年就航した「橘丸」も快適で、デッキ
 からの眺(鳥?)望も良好だった。(浅見 徹)

5月10日(日) 熊谷市 大麻生

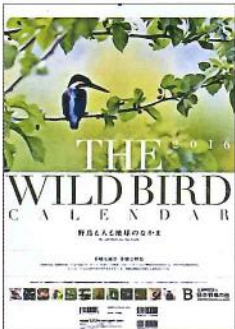
参加: 31名 天気: 快晴

キジ カルガモ キジバト カワウ アオサギ
 トビ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ ハシ
 ボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツ
 バメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ
 メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワ
 ラヒワ ホオジロ (23種) (番外: ガビチョウ)
 土手から眺めると遠くの鉄塔付近をトビ、チョウ
 ゲンボウが飛び、ゴルフ場の中をキジ♂2羽が凄
 いスピードで走っていた。聞こえてくるのはシジ
 ユウカラ、ウグイスのさえずり、河原に出てホオ
 ジロ。野鳥の森でエナガ、メジロ、コゲラを見た。
 下見の時に居たキビタキやセンダイムシクイは確
 認できず、夏鳥はツバメ、イワツバメだけ。鳥合
 わせをしていたら、カワセミが鳴きながら飛び、
 鮮やかなコバルト色を見せてくれた。(千島康幸)



03-5436-2636 メール:birdshop@wbsj.org

● **ワイルドバード・カレンダー2016**



「多様な風景 多様な野鳥」をテーマに、全国から寄せられた 2,021 点の力作の中から選ばれた 12 枚の写真は、日本各地の自然に生きる野鳥たちの姿を美しくとらえています。

【レギュラーサイズ】B3判 (約 51×36cm) 一般価格税込 1,512 円、会員価格税込 1,296 円。探鳥会などで、お早目にお求めください。在庫がなくなった段階での、追加仕入れはありません。

● **新入会者にカレンダープレゼント**

2015 年中に公益財団法人日本野鳥の会に入会申し込みをされた方には、上記カレンダーをプレゼントします。対象会員種別は、おおぞら会員・青い鳥会員・赤い鳥会員・個人特別会員です。家族会員の方は、1 家族に 1 部となりますので、ご了承ください。ご登録の住所に郵送します。

会費のお支払方法によって、最終受付日が違います。オンライン・Loppi でのご入会は、お申し込みが 12 月 31 日まで。郵便振替は、ご入金が 12 月 31 日まで。口座自動引き落としは、申し込みの消印が 12 月 31 日まで。

お友達やお知り合いに入会をお勧めする際に、お伝えください。

問い合わせ:(公財)日本野鳥の会普及室販売出版グループ TEL:03-5436-2626 FAX:

● **会員数は**

10 月 1 日現在 1,759 人。

活動と予定

● **8～9月の活動**

8月26日(水)見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク第2回運営会議に出席(小林みどり、藤掛保司)。

9月12日(土)『しらこぼと』10月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

9月20日(日)役員会(司会:石塚敬二郎、各部の報告・11月に開催される連携団体全国総会への出席者・関東ブロック協議会準備・その他)。

9月24日(木)『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』10月号を郵便局から発送(海老原美夫)。連休のため、遅くなりました。

● **11月の予定**

11月7日(土)編集部会。普及部会。

11月14日(土)12月号校正(午後4時から)。

11月21日(土)袋づめの会(午後3時から)。

11月22日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

昨年4月に1週間ほど、タイ北部チェンマイ地方のバードウォッチングツアーに出かけた。チメドリ類や赤いサンショウクイ類、野生のランなどを楽しんだが、ちょうど水かけ祭りの時期、我々の車も盛大に水をかけられた。街角に待ち構えて通る車に水をかける人たち、トラックの荷台に水のドラム缶を載せて応戦する家族、みんな楽しそうだったな。(海)

しらこぼと 2015 年 11 月号(第 379 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町
 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断
 転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社